

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	44人	算数	44人	理科	44人
第5学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人

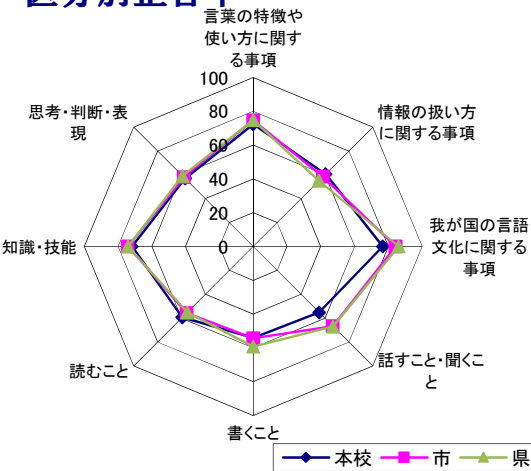
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.4	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	60.5	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	76.7	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	55.2	66.7	66.9
	書くこと	54.1	54.3	59.3
	読むこと	59.3	55.6	55.2
観点	知識・技能	71.7	74.1	74.0
	思考・判断・表現	57.0	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

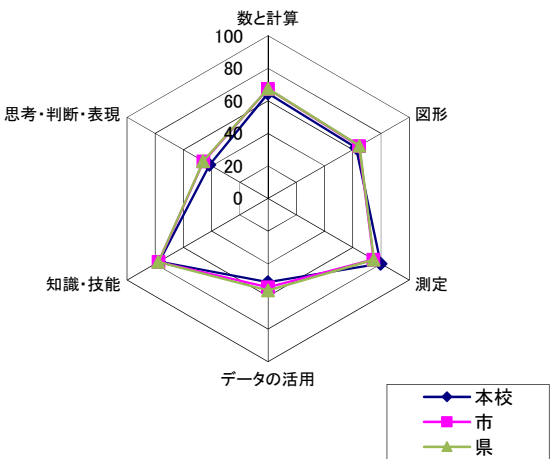
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は72.4 %で、県の平均正答率より2.4ポイント下回っている。特に、3年の既習漢字の読み書きの問題では、県の平均正答率より低く、定着が不十分であった。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題では、平均正答率が46.5%で、県の平均正答率より19.4ポイント下回っている。	・基礎基本の定着のため、スキルアップタイムを活用し、確認テストの実施やAIDリルを有効活用し、繰り返し練習して習熟を図る。 ・漢字の活用力を付けるために、国語ドリル等を活用し、文の中の漢字を読んだり書いたりする練習に取り組ませる。 ・適切な係り受けの関係を理解させ、主語と述語を意識して短文作りや読み取りをさせる。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は60.5%で、県の平均正答率より5.5ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方を理解し、適切に調べる力が身に付いている。	・今後も国語辞典や図書資料を積極的に活用し、多くの情報に触れさせるとともに、その中から必要な情報を選択する学習活動を意図的に設ける。
我が国の言語文化にに関する事項	●平均正答率は76.7%で、県の平均正答率より9.4ポイント下回っている。 ●漢字が「へん」や「つくり」から構成されていることについての理解が不十分である。	・漢字が、「へん」や「つくり」などから構成されていることについておさえ、様々な漢字の構成を覚えるために既習漢字の仲間分け活動等をし、部首に着目できるようにする。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は55.2%で、県の平均正答率より11.7ポイント下回っている。 ●話し方の工夫を捉えることと、司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめることができるかについての問題では、ともに県の平均正答率を約15ポイント下回っていて、課題が見られる。	・話を聞くときは、まず話をしっかり聞き、次の段階としてメモを取るなど、スモールステップで学習を積み重ねることで、話の中心を落とさずに聞き、自主的に話し合いに参加できるように支援する。 ・国語だけではなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動においては、聞き手が質問する場面を設定することで、基本的な話の聞き方を身に付けさせる。 ・メモから必要な内容を整理し、相手に伝えたり確認したりする活動を取り入れる。
書くこと	●平均正答率は54.1%で、県の平均正答率より5.2ポイント下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことについての問題では、平均正答率が34.9%で、県の平均正答率より20.8ポイント下回っている。	・自分の思いや考えを、他者に伝える機会を設け、理由や根拠を基に、段落のまとまりを意識した文章で書くことができるように指導していく。 ・日記や作文など、文を書く機会を意図的に取り入れ、基礎的な文章記述力を身に付けさせる。
読むこと	○平均正答率は59.3%で、県の平均正答率より4.1ポイント上回っている。 ○説明文を読み、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、平均正答率が72.1%で、県の平均正答率より19.8ポイント上回っている。 ●叙述を基に内容を捉える問題では、課題が見られた。	・説明文に多く触れさせ、段落のまとまりを意識して読んだり、文章の中心を捉えて要点をまとめたりする指導を続ける。 ・物語教材では、学び合いの場を設け、登場人物の気持ちや場面の様子などについての読み取りを共有することで、読み方が深まるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.6	67.3	67.4
	図形	62.3	64.5	64.7
	測定	79.7	74.7	74.9
	データの活用	51.2	54.4	56.4
観点	知識・技能	77.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	41.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

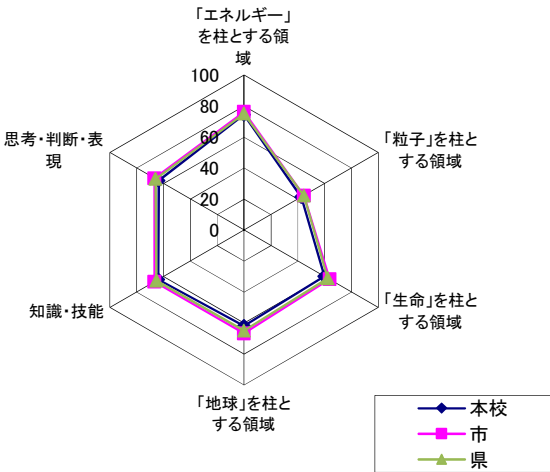
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の表す大きさの理解についての問題では、平均正答率が65.1%で、県の平均正答率より5.7ポイント上回っている。 ○□を使って問題の場面を図に表すことについての問題では、平均正答率が53.5%で、県の平均正答率より5.9ポイント上回っている。 ●小数のしくみや表し方の理解についての問題では、平均正答率が74.4%で、県の平均正答率より13.2ポイント下回っている。 ●2けた×1けた＝3けたの計算の問題では、平均正答率が67.4%で、県の平均正答率より15.9ポイント下回っている。	・数直線に小数を表したり、位取り板を使って小数と整数の表し方の仕組みを考えたりすることで、小数の仕組みや表し方を理解できるようにする。 ・スキルアップタイムを活用し、基本的な計算問題に取り組み、繰り返し練習をすることで計算力の習熟を図っていく。
図形	○円の中心とコンパスの使い方の理解についての問題では、平均正答率が72.1%で、県の平均正答率より12.1ポイント上回っている。 ●円の性質を考え、コンパスを使った正三角形の作図を説明する問題では、平均正答率が23.3%で、県の平均正答率より10.1ポイント下回っている。 ●球の性質を利用して半径の長さを求める問題では、平均正答率が53.5%で、県の平均正答率より11.2ポイント下回っている。	・円の中心、直径、半径、球の概念については、デジタル教科書やICT教材を活用して視覚的に捉えられるように工夫し、正しく理解できるようにする。 ・正三角形の定義を押さえたり、円の性質と関連付けて考えられるようにし、「円の半径」や「三つの辺の長さ」などの理由を記述する際に必要なキーワードを示したりして、的確に表現する力を高める。
測定	○はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題では、平均正答率が62.8%で、県の平均正答率より11.7ポイント上回っている。 ○身近な物の重さについて、およその見当を付ける問題では、平均正答率が86.1%で、県の平均正答率より5.9ポイント上回っている。 ●時間の経過についての理解は、不十分である。	・日常生活の中で時間の長さを意識させる場面を設定することで、経過した時間から時刻を求める方法の理解を深めるようにする。 ・時間が経過する前の時刻を求める問題において、時計模型を使ったり、図に表現したりするなど視覚的にとらえやすいように工夫し、正しい時刻を求めることができるようにする。
データの活用	○棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを指摘する問題では、平均正答率が95.4%で、県の平均正答率より6.2ポイント上回っている。 ●二つの棒グラフを比較して読み取る問題では、平均正答率が7.0%で、県の平均正答率より16.6ポイント下回っている。	・棒グラフの各項目の数量やその違いを読み取る経験を積みさせることで、数量の大きさの違いを一目で比べることができるよさを実感しながら棒グラフを読んだり書いたりする力を高める。 ・棒グラフから読み取れる情報を的確に把握する力を身に付けるために、他教科においても意識して棒グラフに触れることができるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.4	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	42.6	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	59.8	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	61.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	63.9	66.8	65.4
	思考・判断・表現	63.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は74.4%で、県の平均正答率より0.7ポイント下回っている。 ○糸電話の声の伝わり方の理解についての問題では、平均正答率が79.1%で、県の平均正答率より6.9ポイント上回っている。 ●実験の目的に応じた記録の表し方に課題が見られる。	・実験や観察を通して、結果を整理し文章にまとめていく活動を繰り返していくことで、学習内容を確実に定着させる。 ・実験の際に記録をするためのプリントを用意し、記入の仕方を繰り返し経験させる。その後、実験計画を立てる際に記録の仕方まで含めた計画を立て、スムーズに記録ができるようにする。 ・実験のデータをもとに考察することで、データから分かることを、原因と結果を結び付けて表現することができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は42.6%で、県の平均正答率より1.9ポイント下回っている。 ○ものの重さから同じ種類の木でできている積木を推測する問題では、県の平均正答率を上回っている。 ●実験の結果を基に記述する問題では、課題が見られる。	・実験結果や考察など、考えたことを言葉にしたり、文章にしたりする機会を増やし、表現力を向上させていく。 ・実験から分かったことを、身の回りの一般的な事象にも当てはめて考える機会を設け、学習したことと実際の生活を関連付けて考えられるようにする。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は59.8%で、県の平均正答率より2.5ポイント下回っている。 ○モンシロチョウの成長の時期により食べるえさの量が異なることの理解についての問題では、平均正答率が69.8%で、県の平均正答率より6.1ポイント上回っている。 ●クモが昆虫ではない理由を記述する問題では、平均正答率が55.8%で、県の平均正答率より13.8ポイント下回っている。	・生き物への興味関心が高く、生き物を観察する機会が多いので、今後も継続させていくように機会を増やしていく。 ・学習して分かった内容を身の回りの事象に当てはめて、理科的な言葉を使って表現をしていく機会を増やし、理解を深めていく。
「地球」を柱とする領域	●平均正答率は61.9%で、県の平均正答率より3.0ポイント下回っている。 ○かげと太陽の位置の関係については、理解できている。 ●太陽の位置の変化を方位で理解できているかについての問題では、平均正答率が32.6%で、県の平均正答率より11.4ポイント下回っている。	・1人1台端末を活用して、授業時間中に観察が難しい現象を見られるようにする。 ・身の回りの事象について、経験をもとに考えたり観察を繰り返したりして、自然についての理解を深められるようにする。 ・調べた事象を、一般的な表現で言語化する機会を設けるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしてる」に肯定的回答をした児童の割合は97.7%と高い値で、県の平均を3.5ポイント上回っている。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」に肯定的回答をした児童の割合も、県の平均を上回っている。家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いことが分かる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合は65.1%で、県の平均より5.3ポイント下回っている。家庭学習の内容を見ても、「復習している」や「テストの間違い直しをしている」の児童の肯定的回答は、それぞれ県の平均よりも低くなっている。宿題のように与えられた課題に取り組むだけでなく、児童が自主的に取り組めるようないくつかの学習課題を提示したり、日々の授業の振り返りから自主学習につながるような指導をしていきたい。また、学年だよりや学級懇談などでも話題にし、家庭と連携して取り組んでいけるようにしたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」に肯定的回答をした児童の割合は62.8%で、県の平均より6.6ポイント上回っている。また、「難しい問題に出会うとよりやる気が出る」に肯定的回答をした児童の割合は65.2%で、県の平均より6.1ポイント上回っている。困難な課題に関して、自分で情報を集め、解決しようとする意欲的な姿勢がみられる。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的回答をした児童の割合は72.1%で、県の平均より4.2ポイント下回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的回答をした児童の割合は67.4%で、県の平均より10.2ポイント下回っている。話し合い活動を意図的に設定し、自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見を聞いたりする機会を増やすことで、積極的に参加できるようにするとともに、自分の考えを広げたり、深めたりすることのよさを実感できるようにしていきたい。

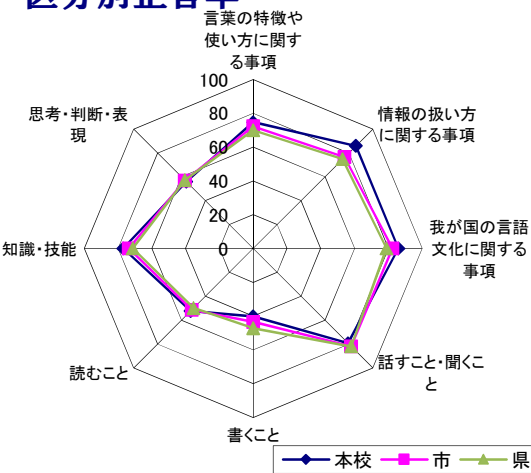
○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的回答をした児童の割合は81.4%で、県の平均より3.9ポイント上回っている。また、「早ね、早起きを心がけている」に肯定的回答をした児童の割合は83.7%で、県の平均より7.8ポイント上回っている。基本的な生活習慣はしっかりと身に付いていることが分かる。今後も規則正しい生活の大切さについて指導していくとともに、学年だよりや学級懇談などの話題に取り上げるなどして、家庭と連携していきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」に肯定的回答をした児童の割合は86.1%で、県の平均より5.4ポイント上回っている。また「自分の行動や発言に自信をもっている」に肯定的回答をした児童の割合は72.1%で、県の平均よりも6.1ポイント上回っている。自分のよさに気づき、自分自身を肯定的に捉え、自信をもって発言や行動をしている児童が多いことが分かる。今後も、学級活動などで認め合う場を意図的に設定したり、機会を逃さず称賛したりして、自己肯定感を高められるように指導していきたい。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.8	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	85.9	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	85.9	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	79.3	81.9	82.0
	書くこと	40.2	43.5	47.2
	読むこと	52.2	51.4	49.8
観点	知識・技能	76.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	56.0	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

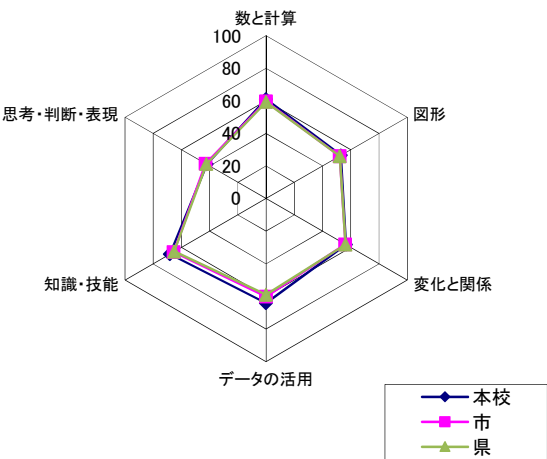
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は74.8%で、県の平均正答率より4.8ポイント上回っている。 ●漢字の読み書きでは、正しく読む問題の平均正答率は県の平均正答率とほぼ同等であった。しかし、正しく書く問題については、問題によって正答率にばらつきが見られた。 ●文の中における修飾の関係を捉える問題では、平均正答率が21.9%で、理解が不十分である。	・漢字の確認テストなどを定期的実施したり、AIDリル等を有効活用して繰り返し練習をさせたりして習熟を図る。 ・文の構成に着目させ、修飾と被修飾の関係を意識した短文づくりができるように指導する。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は85.9%で、県の平均正答率11ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方を理解し、適切な調べ方で使う力が身に付いている。	・国語の授業だけでなく、他教科等の調べ学習や日常生活の中でも辞書や辞典を積極的に活用するようにし、正しい使い方を理解できるようにする。 ・今後も漢字辞典や図鑑の索引等を積極的に活用し、必要な情報を選択する学習活動を意図的に設ける。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は85.9%で、県の平均正答率より7ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解し、文の中で、正しく使う力が身に付いている。	・国語の授業だけでなく、生活経験と結び付けてことわざや慣用語、故事成語に触れる機会を設けたり、日常生活で使えるように短文づくりなどを行ったりして、理解を深める。 ・必要な知識や情報を得ることができるように、幅広く読書に親しむ機会を意図的に設定する。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は79.3%で、県の平均正答率より2.7ポイント下回っている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることと、相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことについての問題の平均正答率は、ともに県の平均正答率を下回っていて、課題が見られる。	・互いの意見を比較し、それぞれの考えがどのようなことに基づいているのかに目を向け話し合い、一つの結論を出したり、自分の考えをまとめたりする活動を取り入れる。 ・説明や報告などを聞き手に分かりやすく伝えたり、必要なことをまとめたりしながら聞く活動を充実させるようにする。
書くこと	●平均正答率は40.2%で、県の平均正答率より7ポイント下回っている。 ●指定された長さや段落構成、事実と自分の考えを分けて書くなどの条件に従って文章を書くことについての問題の平均正答率は、ともに県の平均正答率を下回っていて、課題が見られる。	・短文づくりや作文など、文を書く活動を意図的に取り入れ、書くことに慣れさせるとともに、基礎的な文の記述を身に付ける指導をする。 ・内容の中心を明確にし、情報を基に構成を工夫して文章を書かせたり、書いた文章を互いに読み合わせたりして、読み手に伝わる文章を書けるようにする。
読むこと	○平均正答率は52.2%で、県の平均正答率より2.4ポイント上回っている。 ○説明文を読んで、情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、平均正答率が76.6%で、県の平均正答率より13.1ポイント上回っている。 ●叙述を基に文章の内容を捉える問題では、平均正答率が23.4%で、県の平均正答率より9.5ポイント下回っている。	・文章を読んで、具体的に想像したり、複数の叙述を結び付けて内容を捉えたりする活動を取り入れる。 ・今後も情報と情報との関係や、段落相互の関係に着目し、文章全体を要約したり、話の内容をまとめたりする活動を継続していく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.0	59.7	59.2
	図形	53.1	52.1	52.1
	変化と関係	56.6	56.1	56.3
	データの活用	64.1	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.2	65.5	65.1
	思考・判断・表現	42.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

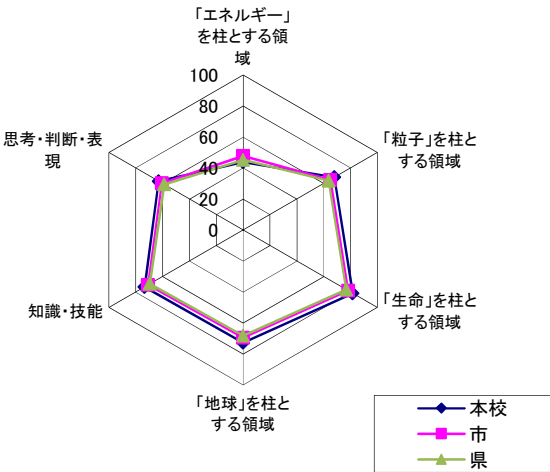
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数直線をもとに、異分母分数の大小関係を考察する問題では、平均正答率が65.6%で、県の平均正答率より13.7ポイント上回っている。 ○3けた÷2けた＝2けた(余りあり)の計算の問題では、平均正答率が73.4%で、県の平均正答率より8.7ポイント上回っている。 ●四則混合の式の計算の順序の理解についての問題では、平均正答率が40.6%で、県の平均正答率より8.8ポイント下回っている。 ●式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する問題では、平均正答率が45.3%と県の平均正答率より5.6ポイント、下回っている。	・「()の中を先に計算する」、「四則の混じった式では、乗法や除法を先に計算する」という計算順序に着目させ、どのような順序で計算すればよいか説明する活動を取り入れる。 ・総合式から具体場面を考える問題に取り組ませること で、式の中の一まとまりになる部分を明確にし、具体場面と関連付けて考えさせるようにする。
図形	○ひし形の作図の問題では、平均正答率が84.4%で、県の平均正答率より9.7ポイント上回っている。 ●複雑な図形の面積の求め方については、理解が不十分である。	・複合図形の面積を求める問題では、図形の見方を働かせて補助線をかいて分割したり、変形したりするなどして、解決の過程を友達に分かりやすく筋道を立てて説明する活動を取り入れる。 ・図形の学習では、実際に描いたり組み立てたりする作業などの体験的な活動を取り入れたたり、デジタル教材を用いて視覚的に捉えたりしながら理解が深まるようにする。
変化と関係	○数量の関係を捉え、正しく表された図を答える問題では、平均正答率が73.4%で、県の平均正答率より4.1ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明する問題では、平均正答率が15.6%で、県の平均正答率より9.4ポイント下回っている。	・絵や図で表すなどして、2つの数量の関係を正しく捉えられるようにし、伴って変わる数量の関係についての理解を深めるようにする。 ・伴って変わる2つの数量の関係について、○や□などの記号を用いて式に表すことのよさに気付かせ、立式が正確にできるように丁寧な指導を心掛ける。
データの活用	○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題では、平均正答率が71.9%で、県の平均正答率より16.2ポイント上回っている。 ○二次元表の読み方の理解についての問題では、平均正答率が89.1%と県の平均正答率より9.1ポイント上回っている。 ●二次元表を読み条件に当てはまる人数を答える問題では、平均正答率が14.1%で、県の平均正答率より8.2ポイント下回っている。	・二次元表に表す活動の際に、初めから分類整理された状態を与えるのではなく、論理的に起こりうる場合について落ちや重なりがないように児童一人一人に考えをもたせるようにする。 ・グラフの読み取り方について、社会など他教科と関連付け活用するようにし、表を読み取る力を高めていく。また、表から読み取ったことを表現する際には、言葉や文で適切に表現できるように対話的活動の充実を図る。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.8	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	68.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	81.6	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	72.7	69.5	68.1
観点	知識・技能	73.4	70.8	69.5
	思考・判断・表現	62.9	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は43.8%で、県の平均正答率より1.5ポイント下回っている。 ○電流が大きくなる回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測する問題では、平均正答率が60.9%で、県の平均正答率より6.5ポイント上回っている。 ●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかについての問題では、平均正答率が14.1%で、県の平均正答率より9.6ポイント下回っている。	・回路のつなぎ方と特長を押さえ、今後も実験を繰り返して理解できるようにしている。関連する理科用語についても、確実に定着を図っていく。 ・機器の扱い方や操作の習熟を図り、適切に実験ができるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は68.0%で、県の平均正答率より4.4ポイント上回っている。 ○ボールに空気を入れるとはずむ理由を説明する問題では、平均正答率が85.9%で、県の平均正答率より24.2ポイント上回っている。 ●水を冷やす実験の準備を理解しているかについての問題では、平均正答率が78.1%で、県の平均正答率より8.4ポイント下回っている。	・今後も興味関心をもって実験や観察を続け、体験として理解できるような機会を増やす。 ・実験や観察をした際には、結果や見取った事象を自分の言葉や文章で表現する機会を増やすことで、学習内容の定着を図るとともに、プリント学習等で繰り返し復習をする。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は81.6%で、県の平均正答率より4.8ポイント上回っている。 ○腕を曲げたときの筋肉の様子を理解しているかについての問題では、平均正答率が82.8%で、県の平均正答率より8.8ポイント上回っている。	・自分で体験して確かめたこととして理解できているので、今後も体験を生かした実験・観察を繰り返し、興味を持って取り組めるように学習内容の工夫を図る。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は68.0%で、県の平均正答率より4.4ポイント上回っている。 ○冷やしたペットボトルについた水滴が、空気中の水蒸気に変化したものと理解しているかについての問題では、平均正答率が76.6%で、県の平均正答率より19.0ポイント上回っている。 ●天気と気温の変化の関係については、理解が不十分である。	・月や星の動きについては、視聴覚教材を活用したり、家庭と連携して観察時間を確保したりするなど、具体的に理解できるように指導していく。 ・今後も基本的な理解に関する用語を指導していく。 ・実験・観察をする際には、ねらいや着眼点を明確にし、事象についての理解を図るとともに、学習内容のまとめでは適切な表現で考えをまとめられるように指導していく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」に、肯定的回答をした児童の割合は95.4%で、「学校の宿題は、自分のためになっている」に肯定的回答をした児童の割合は95.3%で、どちらも県の平均とほぼ変わらず高い値である。家庭学習の意義や習慣が身に付いていることがうかがえる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合は低い傾向にあり、それぞれ県の平均も下回っている。今後は、与えられた課題に取り組むだけでなく、いくつかの学習課題を提示するなど、自主学習につながるように声掛けしていきたい。また、学年だよりや学級懇談などでも話題にし、家庭と連携して取り組んでいけるようにしたい。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」に肯定的回答をした児童の割合は98.5%で、県の平均より4.3ポイント上回っている。また、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」に肯定的回答をした児童の割合は90.6%で、県の平均より6.5ポイント上回っている。学習したことを生活に生かそうとしたり、新たな課題を見つけようとしたりするなど、学習に対する前向きな姿勢が分かる。

●「ぎ問や不思議に思ふことは、分かるまで調べたい」に肯定的回答をした児童の割合は59.3%で、県の平均より5.9ポイント下回っている。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」に肯定的回答をした児童の割合は73.4%で、県の平均より11.4ポイント下回っている。学習に対する意欲は高いので、疑問や不思議に思ふことに対して最後まで継続して取り組めるように、教材を準備したり声掛けをしたりして支援していきたい。

●話し合い活動に意欲的に取り組んでいる児童が多い反面、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的回答をした児童の割合は68.8%で、県の平均より11ポイント下回っていて、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に肯定的回答をした児童は43.8%で、県の平均より5.8ポイント下回っている。一人一台端末等を効果的に活用するなどして伝え合いや学び合いの場を設定し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる授業の展開を工夫することで、話し合うことのよさを実感できるように指導していきたい。

○「しょう来のゆめや目標を持っている」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分もっている能力を十分に発ぎきたい」に肯定的回答をした児童の割合は高く、それぞれ県の平均も上回っている。今後も、目標に向かって努力する態度をや社会のために役立つことができる力を育てていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に肯定的回答をした児童の割合は53.2%で、県平均より9.8ポイント下回っている。また、「自分には、よいところがある」に肯定的回答をした児童の割合も県の平均を下回っている。学級活動や委員会活動などで、自分のよさを生かしたり互いの認め合ったりできる場を意図的に設定し、機会を逃さずに称賛するなどして、自己肯定感や有用感を高めるように支援していきたい。

宇都宮市立清原南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT等を効果的に活用した学習活動の充実	児童が自らの課題を解決するために、一人一台端末や図書等を活用し、情報を取捨選択したり、発信・共有したりすることで思考を深め、主体的に取り組むことができるように学校全体として取り組んでいる。	4・5年生ともに、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の肯定割合は県や市の肯定割合より高く、「疑問や不思議に思ふことは、分かるまで調べたい」の肯定割合は県や市の肯定割合より低い。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」では、4年生の肯定割合は県や市の肯定割合より高く、5年生の肯定割合は県や市の肯定割合より低い。
児童同士の協働的な学び合いを通した思考力の向上と教師のコーディネートを意識した授業の展開	根拠を基にした自分の考えをもち、教師のコーディネートによって、児童の考えを深めたり広げたりすることができるような授業の実践を行っている。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」では、4年生の肯定割合は県や市の肯定割合より低く、5年生の肯定割合は県や市の肯定割合より高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」では、4・5年生ともに肯定割合は県や市の肯定割合より低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、どの教科においても、思考・判断・表現の平均正答率が低い傾向にあった。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問の肯定割合が高く、書くことに苦手意識を持っている児童の割合が高い。	言語活動の充実と各教科の見方・考え方を働かせた授業展開の工夫	各教科の特質に応じて、言語活動を充実させるとともに、学習のめあてに即した振り返りを児童自身の言葉で論述させる活動を意図的に取り入れるなど授業改善に取り組む。
意欲的に話し合い活動に取り組む様子が見られる反面、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的な回答をした児童の割合は、県や市の割合より低くなっている。	協働的な学びの充実と教師のコーディネート力の向上	学び合い高め合う場面を意図的に設定するために、一人一台端末を効果的に活用するなどの授業展開の工夫を行うとともに、教師のコーディネート力を高め、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう「学習の個性化」を図るようにする。